

韓国環境部プレスリリース 2020年2月24日付

京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 249-257 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1333795&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、2月21日～23日江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）および上西面（サンソミョン）、京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）百鶴面（ペツカンミョン）で発見された野生いのしし死体8個体と、2月22日華川郡（ファチョングン）看東面（カンドンミョン）で捕獲罠に捕えられた野生いのしし1個体から ASF ウイルスが検出されたと2月24日明らかにした。

□国立環境科学院は2月24日野生いのしし9個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで漣川郡（ヨンチョングン）77件、華川郡（ファチョングン）92件、鉄原郡（チョルウォングン）22件、坡州市（パジュシ）66件、全体257件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

○野生いのしし ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回陽性となった野生いのししは全て広域フェンス内で発見され、他にも感染個体が存在するか確認するため搜索を継続する」と明らかにした。

以上